

2026 年度 慶應義塾大学 一般選抜
看護医療学部 小論文
出題意図および解答（解答例）

問題 1

<出題意図>

論理的な文章である外山滋比古の文章を題材としました。経験に基づく思考的および具体的論述に加えて、抽象的な論述が含まれる文章です。一見分かりやすいようですが正確に理解する読解力が必要とされます。論旨の要となる部分を簡潔に的確にまとめる表現力を問う問題を出題しました。

<解答例>

寝た後の頭は、能率が良くなる経験や素直な大らかさを感じた経験から夜間の睡眠と昼寝の睡眠が含まれる睡眠後と睡眠して起きた時点の直近の食事をする前の間の時間に仕事や勉強をすることを「朝飯前」と考えている。

以上

問題 2

<出題意図>

文章の読解力、正確な理解力を評価しました。具体的には、著者の論旨を簡潔に述べる表現力が必要です。さらに、他者（著者）の論旨と自分自身を客観的あるいは俯瞰的にみる能力が試され、自身の事象やその根拠について論理的に考察し、記述する表現力を求めています。さらに、自分自身を客観的あるいは俯瞰的に見る能力や事象と根拠の説明には、本学部のアドミッションポリシーに合う人材であるかを含めて評価しています。

<解答例>

著者は、仕事に取り組む時などの集中したい時には、睡眠後からご飯を食べる間の時間帯の特に朝飯前に行くことが最高の時間であると述べている。著者は、夜型であったが様々な経験をする中で朝飯前を最高の時間であると思えるようになったようである。私は、人と真剣に話せる時間が、最高の時間である。人と話すことには、ふざけたり、他愛もないことを話したり、面白おかしく話したりと、話し方には多くの種類があるが、私の最高の時間とは、相手も私もある出来事などに真剣に向き合って話すことができた時に限る。真剣に話せる相手がいない限りは、最高の時間は訪れない。しかし、私には真剣に話すことができる友人がいる。真剣に話すことができる友人と出会うまでには、自分なりに相手を選ぶことや、何を話すかを考えてきた。そういう過程を歩む中で、真剣に話すことができる友人に出会えたことによって、最高の時間であることを感じるようになった。友人が、私の話を真剣に聞いてくれることや、それに対して様々な問いかけをしてくれることによって、自らの考えが整理される。以上のことから、私は真剣に話せる相手と話す時間を最高の時間であると考えている。

以上